

日大豊山水泳部の軌跡 13

2002(平成 14)年から活躍した選手が北海道出身の佐藤久佳氏である。

佐藤氏は個人メドレーの選手であったが、どの種目もバランスがよく特に自由形の能力が高い選手であった。

高校 2 年生から頭角を現し、高校 3 年生のときには 200m 個人メドレーで優勝、800m リレーでは 1:49 秒台という記録を出した。

夏季 JOC では 100m 自由形で高校新記録を樹立した。

2005(平成 17)年大学入学後、最初の日本選手権では世界選手権の日本代表に選出された。

その時、400m リレーの引継ぎで 48 秒 5 という記録を出した。

100m 自由形で長年にわたり日本人にとって壁となっていた、50 秒台を突破できる可能性を感じさせた瞬間であった。

それが実現したのが、同年の日本学生選手権であった。

日本大学の 1 年生として、400m リレーの第 1 泳者で日本人初となる 100m 自由形 49 秒 73 を樹立した。



その2日後には100m自由形決勝で49秒71の記録を出した。

そして2008(平成20)年の北京オリンピック代表選手に選出された。

柴田隆一氏と共に複数参加となったのは、水泳部史上東京オリンピック以来のことである。

北京オリンピックの競泳監督は上野広治氏、トレーナーとして小沢邦彦氏も帯同し、日大豊山OBが大変活躍した大会であった。

佐藤氏は最終日の最終種目である400mメドレーリレーのアンカーとして見事、銅メダルを獲得した。

オリンピックメダリスト誕生は 1960(昭和 35)年ローマオリンピックの石井氏以来、48 年ぶりの快挙であった。